



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

## 1. モモ新品種「白露」の無摘蕾、予備摘果省略による省力的栽培

[要約]

モモ新品種「白露」は、結実率が低いため摘蕾作業を行わない。さらに、予備摘果も省略することができるため、仕上げ摘果のみの着果管理により果実品質及び収量を維持しながら、省力的に栽培できる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「白露（岡山 P E H 8 号）」は、「清水白桃」に比べて結実率が低いため、初期の着果管理を大幅に削減できる省力栽培に適した品種である。そこで、摘蕾や予備摘果を省略した着果管理が樹体生育や果実品質及び収量に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「白露」は「清水白桃」に比べて結実率が低く、10%程度である（表 1）。
2. 「白露」は摘蕾を行っても果実の大きさ、品質、裂皮及び核割れ果率には差がなく（表 2）、葉色や新梢停止率にも大差がないが（データ省略）、収量は減少する（図 1）。
3. 「白露」は無摘蕾でも、結果枝の長さ 20 cm に 1.2 果程度の着果数である。これは、岡山県における一般的な予備摘果後の着果量と同程度であり、予備摘果を省略しても、果実諸形質や収量に差がなく（表 3）、葉色や新梢停止率にも差がない（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本品種は、2017 年 9 月に「白露<sup>はくろ</sup>」として商標登録された。品種名は「岡山 P E H 8 号」、系統名は「岡山モモ 14 号」である。
2. 本品種は、岡山県内で栽培可能で、県外へ苗木は供給しない。
3. 本試験における仕上げ摘果は満開 46 日後に実施した。



[具体的データ]

表 1 過去 3 年間の「白露」及び「清水白桃」の結実率<sup>z</sup> (2015～2017 年、岡山農研)

年次	白露	清水白桃
2015年	9.3	55.0
2016年	7.7	59.7
2017年	9.0	55.4

<sup>z</sup> 平均的な側枝の結実率(%)

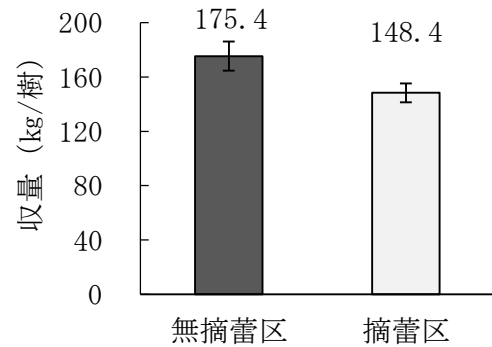


図 1 摘蕾の有無が「白露」の樹当たり収量<sup>z</sup>に及ぼす影響 (2016 年)

<sup>z</sup> 5 年生樹を供試

<sup>y</sup> バーは標準誤差 (n=3～4)

表 2 摘蕾の有無が「白露」の果実諸形質及び核割れ果率に及ぼす影響<sup>z</sup> (2016 年)

処理区	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	果実硬度 (kgf)	果汁 pH	裂皮 <sup>y</sup> (0～4)	核割れ果率 (%)
無摘蕾区	396	14.4	2.6	3.7	0	1.7
摘蕾区	415	14.8	2.7	3.6	0	2.5
有意性 <sup>x</sup>	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.

<sup>z</sup> 摘蕾は無花粉品種で行う程度 (4～5 割摘除) とし、予備摘果及び仕上げ摘果の程度は、それぞれ結果枝の長さ 20cm 及び 40cm に 1 果程度とした

<sup>y</sup> 裂皮程度は (0: 無、1: 微、2: 少、3: 中、4: 多) の 5 段階で達観評価

<sup>x</sup> t-検定により、n. s. は処理区間に 5% 水準で有意差なし (核割れ果率は arcsin 変換後)

表 3 予備摘果の有無が「白露」の果実諸形質、核割れ果率及び樹当たり収量に及ぼす影響<sup>z</sup> (2017 年)

処理区 <sup>z</sup>	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	果実硬度 (kgf)	果汁 pH	裂皮 <sup>y</sup> (0～4)	核割れ果率 (%)	収量 <sup>z</sup> (kg/樹)
無予備摘果区	411	14.4	2.4	4.0	0	12.5	168.9
予備摘果区	399	14.5	2.4	3.9	0	9.2	167.4
有意性 <sup>x</sup>	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.

<sup>z</sup> 両区とも摘蕾は行わず、予備摘果及び仕上げ摘果の程度は、それぞれ結果枝の長さ 20cm 及び 40cm に 1 果程度とした

<sup>y</sup> 裂皮程度は (0: 無、1: 微、2: 少、3: 中、4: 多) の 5 段階で達観評価

<sup>x</sup> t-検定により、n. s. は処理区間に 5% 水準で有意差なし (核割れ果率は arcsin 変換後)

[その他]

研究課題名：モモのオリジナル新品種の高品質安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2012～2020 年度

研究担当者：樋野友之、藤井雄一郎、荒木有朋

関連情報等：1) [日原ら \(2014\) 岡山県農業研報、5 : 13-16](#)

2) [平成 26 年度試験研究主要成果、11-12](#)